

北海道沼田町ゼロカーボンシティ宣言

－ 2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けて－

沼田町は北海道のほぼ中央、空知管内の最北部に位置し、気候は内陸性で、最高気温と最低気温の格差が大きく、冬期においては管内でも有数の豪雪地帯として知られています。

豪雪地帯である本町は、利雪の先進地として知られており、平成8年に世界で初めて雪冷房システムを導入してお米を低温貯蔵する施設「スノークールライスファクトリー」を建設し、低温貯蔵等する際の冷熱に雪を利用しています。また、現在も雪の利用についての実験・研究が進められており、雪冷熱を活用した農産物の生産、貯蔵による農産物の付加価値化や特産品の開発等を進めているところです。

しかし、本町においても、年平均気温は上昇し、夏には連日30度以上の真夏日が増えるなど、地球温暖化による気候変動を実感するところであり、町の主要産業である農業分野などにもその影響を及ぼしつつあるところです。

この地球温暖化への対策には、世界規模での対策が求められており、地球上に生きる全ての生き物にとって、避けることのできない喫緊の課題であります。この地球温暖化対策の解決のために、国は、2050年までにカーボンニュートラルの実現を掲げ、一日も早い脱炭素社会の実現に向けて国を挙げて取り組んでいくこととされています。

このようなことから、本町においても、先人たちのたゆまぬ努力により受け継がれた素晴らしい財産と限りない資源を、未来を担う子どもたちやその先の世代へ安心して引き継ぐことが出来るよう、国際社会全体の共通目標である「SDGs（持続可能な開発目標）」の取り組みと併せて、二酸化炭素の吸収源である森林の整備や雪冷熱エネルギーのほか、太陽光発電やバイオマスなど新エネルギーの導入に向け、環境にやさしい取り組みを推進するため、町民及び事業者の皆様と共に知恵と工夫を集結し、「オールぬまた」で取り組み、2050年までに二酸化炭素実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言します。

令和3年9月16日

北海道沼田町長 横山 茂